

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク（ARRN）の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。

## 目次

	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ.....	1
➤ 会員寄稿記事.....	3
➤ 研究・事例紹介.....	11
➤ 会議・イベント案内.....	16
➤ 書籍等の紹介.....	16
➤ 会員募集中.....	17

## JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

## 「小さな自然再生」事例集制作プロジェクト進捗報告 ～11/26 座談会 及び 第3回編集委員会

JRRN では、市民が河川管理者と連携して日曜大工的に取り組める「小さな自然再生」に関わる事例集の制作を、編集委員会を立ち上げて協働で進めており、11月の活動を簡単にご報告させていただきます。

11月の活動では、「小さな自然再生」に関わる現場熟練者と行政担当官による座談会と、第3回編集委員会を同日（11/26）に開催し、事前集完成に向けた最終調整に入りました。

## 【1】「小さな自然再生」座談会

「小さな自然再生」に関わる関係省庁の施策との共通項関連性を見出し、身近な水辺での自然再生活動への市民参加の更なる推進に向けた方策を導き出すことを目的とした座談会を、下記の参加者で開催しました。

## 【座長】

玉井信行（東京大学名誉教授、JRRN/ARRN 顧問）

## 【参加者】

鳥居敏男（環境省自然環境局自然環境計画課長）

中村圭吾（国土交通省国土技術政策総合研究所  
河川研究部河川研究室 主任研究官）

岩瀬晴夫（株）北海道技術コンサルタント）

浜野龍夫（徳島大学大学院教授）

本座談会の前半部では、事例集編集委員より、現在作成中の事例集の概要紹介に基づき、小さな自然再生の考え方や留意点、またこれまでの取組みを振り返っての現場の実情、課題、工夫等について話題提供をいただき、後半部では、環境省及び国土交通省における小さな自然再生に関連する施策等をご紹介いただき、

今後の更なる推進に向けた技術面や制度面に関わる課題と展望について活発な議論が交わされました。

座談会座長である玉井先生からは、これまで明確化が困難であった「小さな自然再生」の定義（範囲）に関するヒントを示唆していただき、事例集の一記事にとどまらない有意義な座談会となりました。

本座談会の詳細は事例集にてご紹介致します。



座談会の様子

## 【2】第3回事例集編集委員会

座談会後、委員全員が会して協議を行う場としては最後となる第3回事例集編集委員会を開催しました。

■日時：2014年11月26日（水） 13:40～16:40

■場所：公益財団法人リバーフロント研究所会議室

■議事：

- (1) 事例集の編集
- (2) 事例集の普及
- (3) 今後の作業スケジュール
- (4) その他

事例集編集委員会では、主に事例集の名称や全体構成、デザイン等について協議を行い、下記の目次（案）で作成することとなりました。

事例集の完成お低は年内とお伝えておりましたが、より良いものをするため、編集・監修にじっくりと時

間をかけることとしました。来年 2 月には皆様にお届けできるよう、編集委員及び事務局一同、引き続き頑張っております。なお、本活動は（公財）河川財団の河川整備基金の助成を受けて実施しています。

（JRRN 事務局・後藤勝洋）

## 水辺の小さな自然再生 事例集 目次（案）

1. 水辺の小さな自然再生とは
2. 水辺の小さな自然再生を行うための留意点
3. 事例紹介
  - ①北海道／駒生川  
～サクラムスがのぼる石と木による手づくり魚道
  - ②神奈川県／黒須田川  
～硬い粘土でできた川底にも緑がよみがえる
  - ③愛知県／五条川  
～岸边にみどりをつくると生き物が集まる
  - ④岐阜県／天神川  
～根固めブロックを並べかえてつくる逆転発想の魚道づくり
  - ⑤岐阜県／桂川  
～ハの字パーブで淵づくり
  - ⑥滋賀県／天野川  
～市民パワーの鋼製魚道で、カムバック・ピワサーモン
  - ⑦滋賀県／喜撰川  
～木箱をつかった手作り魚道
  - ⑧滋賀県／高時川  
～川の水が減ったときの逃げ場所づくり
  - ⑨兵庫県／住吉川  
～急こう配の都市河川にもアユがのぼる

- ⑩兵庫県／安室川  
～川を耕して希少種を再生する
- ⑪兵庫県／佐治川  
～パイカモを再生するゾーンディフェンス
- ⑫兵庫県／羽束川  
～オオサンショウウオ専用の魚道づくり
- ⑬兵庫県／池尻川～三面張り水路をちょこっと再生する
- ⑭山口県／島田川～石組み職人的な「水辺の小わざ魚道」
- ⑮福岡県／室見川  
～石を掘りおこしてシロウオの産卵環境をつくる
- ⑯福岡県／上西郷川  
～小学生と大学生が力を合わせてつくる丸太式水制  
（特集）上西郷川現地にて 島谷先生インタビュー

## 4. 「小さな自然再生」座談会

- 巻末資料
1. 編集委員紹介
  2. 小さな自然再生の現場へ行ってみよう（AQMAP 紹介）
  3. 参考図書

## JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

### 長崎県東彼杵町より感謝状を頂きました

2014 年 11 月 24 日（月）に長崎県東彼杵町主催「水辺からのまちおこし広場」が開催され（本誌 P13 に関連記事あり）、本行事において、東彼杵町が取組む「川を活かしたまちづくり」での協働活動に対し、東彼杵町より JRRN へ感謝状を頂きました。

JRRN では、河川再生の推進に向けた国内外団体の支援や協働の一環として、東彼杵町の関係者や筑波大学白川（直）研究室で構成される「彼杵おもしろ河川団」に加わり、川を活かしたまちづくり活動に参加しています。本活動では、立場の異なる様々な主体がそれぞれの得意技を持ち寄りながら、川とまちのあり方を考え、できることから一歩ずつ実践していくことを目指しております。

JRRN の使命である『河川再生の担い手の出会いの広場を構築する』の達成に向け、引き続き、東彼杵町での協働活動を通じて、地元が主役の河川再生の技術や仕組みのあり方を学ばせて頂き、その成果を全国に紹介できるよう努めてまいります。



（JRRN 事務局・和田彰）

## 環境学習支援による土木分野への興味・意識向上のあり方について

寄稿者：宇井正之（株式会社 建設技術研究所 水システム部・JRRN 会員）

### ■まえがき

株式会社建設技術研究所（以下、「当社」という。）では、業務や社外活動の一環として、主に河川・海辺における環境学習支援活動を行っています。支援活動の多くは、対象とする水域（河川・海辺）の特性と地域との関わりについて、子ども達に「体験型学習」を通じて理解してもらい、併せて、自然環境に対する興味・意識向上を促すことを目的に行っています。

身近な自然環境について、子ども達が遊びや通学の中で見ている視点ではなく、例えば、水の流れや水質を調べるなどの視点で、少しでも環境への興味・意識向上が図れれば、環境の保全・保護の重要性を認識できるのではないかと考えています。そういう子ども達が、将来的には環境を保全・保護するための“術”を考えることができる大人へと育つことが期待できるものと考えています。

当社では、会社の経営理念に基づく行動憲章の一つとして「よき企業市民として、積極的に社会貢献活動を行う」ことを掲げ、社員の得意分野を活かした貢献活動を行っています。環境学習支援にあたっては、各種の指導者資格（プロジェクトWET、プロジェクトWILD、RACなど）を有する社員が集まり、社内外で培ったノウハウを活かし、主に小・中学校を対象に環境学習支援を行っています。

ここでは、昨今、学生の土木離れが指摘される中、当社で実施している環境学習支援活動を通じて初等教育の段階から“土木”を意識させるためのあり方について、私見を述べます。

### ■環境学習支援活動の実施例

当社において、筆者等が実施している環境学習支援活動を図1に示します。

環境学習支援活動にあたっては、その継続性の確保から、地域活動家（地域活動団体）や保護者と連携して行うことを基本としています。また、児童・生徒達とは別に、先生自らが身近な自然環境に興味を持ち、それを教育現場で子ども達に伝えることができるよう、教員を対象とした体験型学習会なども行っています。学校に対して行う環境学習支援として、私は表1（次頁）に示す事項に留意しています。

### 体験型学習の企画・運営（対象：教員）

教員の環境学習に関する興味・関心を向上させる取り組み



水源地見学会



水中観察



川流れ体験

児童が興味・関心を持つと思われる様々な事象について、教員を対象に現地研修会を実施しています。

### 地域活動家・父兄と連携した支援



地域活動家・教員とのミーティング



親子水辺安全講座の開催



地域活動家・教員との勉強会

学校が主体となって継続した取り組みができるよう、地域活動家や保護者と連携した支援を行っています。

図1(1) 当社で実施している環境学習支援活動

## 様々な学習支援



水辺安全講座の実地



教科学習支援



野外観察会



流れの速さ測定



「地球と水」についての座学



自然観察会

図1(2) 当社で実施している環境学習支援活動

表1 環境学習支援にあたっての留意点

- 「学習指導要領」を理解すること（特に、土木分と関係する理科・社会科）
- 支援を行う学校の「年間指導計画」を理解すること。
- 環境学習は、先生にも興味を持ってもらえる内容とすること。

### ■ “土木”を意識した環境学習支援のあり方

子ども達に「土木とは何か？」と尋ねても、返答できる子どもはまずいません。また、「土木とは・・・」と説明しても、理解してくれる子どもも稀です。私が実施している環境学習支援では、直接的に“土木”を理解させる活動は行っていません。初等教育の段階では、“土木”を「理解」させるのではなく、「意識」させることが重要であると考えます。

そのために、子ども達に自然環境の大切さと併せて自然災害の恐ろしさについても伝えるようにしています（以前は、国土交通省関東地方整備局が保有していた自然災害体験車を活用していました）。その上で、環境保全や災害対策にあたって様々な構造物（例えば、堤防や護岸など）があることを現地で実際に見せることによって、“土木”が果たし得る役割を子ども達が意識できるようになると考えています。

一方、学校側の状況をみると、小・中学校で実施されている環境学習活動の多くは、「総合的な学習の時間」（以下、「総合学習」という。）が活用されています。これは、環境学習活動が、教科指導外と位置付けられていること、また、活動にあたって事前準備が必要となるなど学校側の負担も多いことから、学外協力が比較的容易な「総合学習」が活用されていることが挙げられます。

しかし、教科単元の中には、“土木”と関連する単元があります（例えば、小学校の社会科：「まちづくり」や「防災」、理科：「流れる水のはたらき」など）。

このため、“土木”を意識した環境学習の実践にあたっては、教科単元と両立させたカリキュラムとして、先生が実践できるものにするのが重要と考えています。（表2）

表2 土木を意識した環境学習支援のあり方

- 初等、中等教育では、身近な自然環境に興味を持つ学習内容とする。
- 学習内容は、可能な限り教科単元と関連させる。  
（例）社会科：「防災」、「まちづくり」、「環境」  
理科：「流れる水のはたらき」
- 身近な自然現象について説明できるよう、先生をサポートする（簡単な学習教材の作成など）。

総合学習の時間が今後短縮される中、教科単元にも応用できる環境学習を積極的に推進し、より多くの子ども達が身近な自然を通じて“土木”にも興味を持ってもらえるよう、私は活動を続けて行こうと考えています。

## ■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。（JRRN 事務局）



ログイン / 新規登録

カワサポについて 団体を探す プロジェクトを探す 記事一覧 団体向け 参加の仕方 企業協賛



## 流域改善に特化したクラウドファンディング「川の応援団(通称:カワサポ)」リリース開始

寄稿者：田中五月（一般社団法人 ClearWaterProject・JRRN 団体会員）

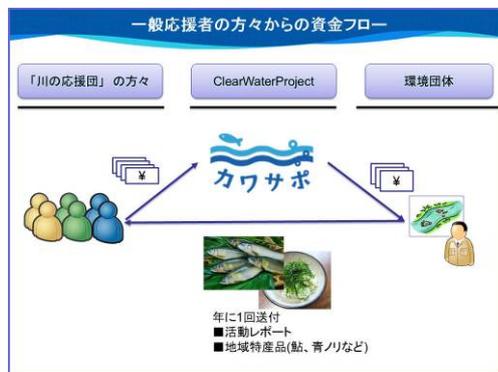
河川の環境改善を実施されている皆様に「カワサポ」というサービスをご紹介します。

### 1. 「カワサポ」サービス概要

カワサポは資金面で水辺で活動する環境団体を応援するサービスで、3通りの資金提供方式があります。

#### ① 一般応援者の方々から資金を集める仕組み

環境団体を応援して下さる方々から、3000 円、6000 円、12000 円という金額で支援金を集め、その70%が環境団体へ、30%が ClearWaterProject のシステム運営費となります。



#### ② 協賛企業から資金を集める仕組み 1-マッチングギフト

マッチングギフトとは、企業がサポーターからカワサポへの支援金と同額を上乘せしてくれるギフトです。カワサポは川に特化したクラウドファンディングであり、「川」や「流域」に関係性のある企業が、熱意を持った環境団体をサポーターともに応援してくれます。

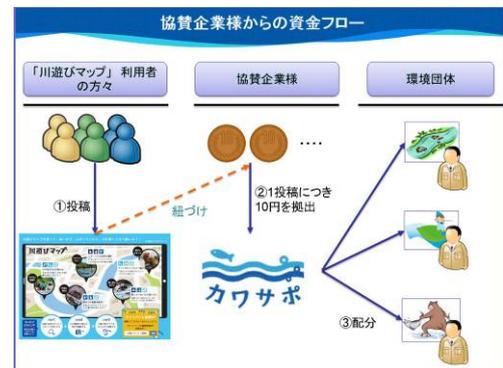
2014年12月1日現在、パシフィックコンサルタンツ(株)より協賛頂いています。

あなたからの支援金	企業からの支援金	支援金の合計
3,000円 +	3,000円	= 6,000円
6,000円 +	6,000円	= 12,000円
12,000円 +	12,000円	= 24,000円

支援金と同額を企業が支援  
合計金額が、環境団体へ！

#### ③ 協賛企業から資金を集める仕組み 2(いいね!基金)

ClearWaterProject で提供している別サービス、川遊びマップでは、1投稿につき10円が「カワサポ」へと拠出されることが決まっています。川遊びマップは「楽しく自然の川で遊ぶ」ためのサービスですが、この「いいね!基金」は「楽しく遊ぶ」を「環境を守る」活動につなげる仕組みで、拠出金額は「カワサポ」対象団体に配分され、この夏は speedo より協賛頂きました。 URL ⇒ <https://www.kawa-asobi.net/>



#### 2. 「カワサポ」参加希望団体へお願い

広く一般の方々からの賛同を得るため、参加団体概要(組織目的、人数など)・活動目標・過去の実績等を紹介する Web サイトを団体毎に作成します。Web サイトの作成は ClearWaterProject で実施しますが、元情報となる上記データの提示をお願いする予定です。

※カワサポ ホームページ

URL ⇒ <https://www.kawa-supporters.net/>

#### 3. 連絡先

興味を持たれた方は、【川サポ問い合わせ】という件名で、[\[kawa-supporters@clearwaterproject.info\]](mailto:kawa-supporters@clearwaterproject.info)までご連絡下さい。必要書類を送付させていただきます。



12月 来年も良いお年を  
お迎え下さい。

## 川系男子の『川と人』めぐり No. 30～九州川のワークショップ～

坂本貴啓 (筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 白川直樹研究室『川と人』ゼミ)

『川と人』  
めぐり

研究室のゼミ名『川と人』ゼミという言葉をもじって、『川と人』めぐりのタイトルで連載していきます。テーマは川と人。川が好きでしようがない『川系男子』が川めぐりをしながら、川への思いや写真・動画などをご紹介していきます。

♪ さ霧消ゆる湊江の 船に白し朝の霜  
ただ水鳥の声はして いまだ覚めず岸の家

(文部省唱歌『冬景色』 作詞・作曲：不詳)



図1 九州川のワークショップ引き継ぎフラッグ

### 1. 11月の川と人めぐり

11月後半になり、九州の紅葉の色づきもピークを迎え、もうすぐ冬支度というところまで秋は深まっていた。11月はなにかと外に出ることが多い月だった。2014年11月22日～23日には遠賀堀川、11月23日～25日までは東彼杵町で研究室のプロジェクトに参加し、その流れもあり鹿児島へ。

2014年11月29日～30日にかけて鹿児島県薩摩川内市で第14回九州「川」のワークショップ in 川内川が開催された。今月は川めぐりが多い月だったが、このワークショップの開催報告をせずにはいられないので、『川と人』めぐりの人の部分を中心に書いてみたい。

表1 九州川のワークショップの歴代開催地  
(資料提供：九州地方整備局)

平成13年度	第1回	福岡県久留米市	筑後川
平成14年度	第2回	佐賀県佐賀市	
平成15年度	第3回	宮崎県宮崎市	大淀川
平成16年度	第4回	熊本県熊本市	白川、緑川
平成17年度	第5回	福岡県直方市	遠賀川
平成18年度	第6回	鹿児島県薩摩川内市	川内川
平成19年度	第7回	大分県別府市	
平成20年度	第8回	長崎県波佐見市	
平成21年度	第9回	佐賀県佐賀市	
平成22年度	第10回	宮崎県延岡市	五ヶ瀬川
平成23年度	第11回	熊本県球磨村	球磨川
平成24年度	第12回	福岡県福岡市	
平成25年度	第13回	宮崎県宮崎市	大淀川
平成26年度	第14回	鹿児島県薩摩川内市	川内川



図2 第14回九州川のワークショップ開会式

### 2. 8年ぶりの開催地

九州川のワークショップとは、2000年に始まった九州各河川で活動する人が自身の川での活動発表する場で、いわば川の自慢大会である。全国川の日ワークショップが今年で18回目であり、それにやり方を習うかたちで全国のワークショップ開始の4年後から九州独自の開催を行ってきた。このワークショップでは各県持ち回り開催で、九州各県(沖縄を除く)の各河川で行われてきた(表1)。



図3 2006年7月の川内川水害（激甚災害指定）



図4 第6回九州川のワークショップ(2006年)

開催地が決定するとその県の川で活動する団体はホスト役を務め、1年間かけて九州各流域の川仲間を迎える準備をする。開催は1泊2日で行われ、毎年300名以上が参加をする。終了すればフラッグ(図1)を次の開催地に渡すという繰り返し。そんなことを14年も続けてきた。このワークショップのすごいのは、活動団体だけでなく、それに関係する国土交通省の各河川事務所、県、市などの行政関係者も数多く参加する。行政の関係者だけでも軽く100名はいるだろう。河川事務所独自の取り組みを発表したり、住民と一緒に発表したり、発表にも涙あり、笑いありのドラマがある。2006年に九州川のワークショップ in 川内川が開催されてから九州各県を一周し、今年再び、川内川開催の運びとなった。

### 3. 2006年の川内川での川のワークショップ

2006年10月に川内川にて九州川のワークショップが鹿児島県薩摩川内市鹿児島純心女子大学にて開催された。この年は川内川にとっては大きな意味のある年となった。同年の7月18日～22日に1200mmという猛烈な豪雨に見舞われ、川内川流域の各所が被災した(図3)。その直後、九州各地から九州川のワークショップ等で関係のある市民団体や大学生



図5 川内行きバス車中での発表練習

などが現地に復旧支援に訪問し、泥のかき出し作業などにあたった。私も当時は大学1年生で、遠賀川に帰省していた時だったが、川内川の悲報を聞き、遠賀川水辺館から応援隊として駆け付けたことを覚えている。

それからわずか3か月後、川内川において当初の予定通り、九州川のワークショップが開催された。当時の開催地担当者の方は相当な苦労があったことを察する。このワークショップの2日目の全体討論ではやはりこの夏の水害のことが中心に議論された。会場との議論の末、九州各地の水害に対して復旧を支援するネットワークを構築しようという旨の「川内川宣言」が採択された(図4)。この宣言は今日までの九州の防災ボランティアネットワークの活発な交流に大きな成果を発揮している。当時の私達大学生も2か月後の1月には九州の大学生・若者間のネットワーク、JOCを構築することにもつながった重要なワークショップとなった。

### 4. 今回の九州川のワークショップ

私が今回の九州川のワークショップへ行くのは3つの理由があった。一つは私の研究報告。九州地方整備局の人に「せっかく全国を巡ったなら、その成果を九州の川の活動に還元してほしい」とのことから。2つ目は発表の支援。現在関わっている長崎県東彼杵町のプロジェクトと一緒に活動している市民団体の人達が初めて九州川のワークショップへ参加をしてみたいとのことで、協働で発表したいとのことから。3つ目は川内川だったから。川内川のワークショップは自身が初めて参加した九州川のワークショップであり、強い思い入れがある。

今回、川内川に向かうにあたっては私のホームグラウンドである、遠賀川水辺館関係の小学生から大人までの多世代30名ほどと乗合いのバスで川内川に向かった。大型バスを借りてこれだけ大勢の団体で参上するのも遠賀川くらいだろう。遠賀川関係の発表は各世代合わせて6団体ほどあり、みんなバスの中で5分以内に発表を終えるよう、何度も練習をしている(図5)。昔、自分達も高校生や大学生のグループの発表を緊張しながら一生懸命練習していた時のことをよく思い出した。



図6 発表の様子



図7 夜のワークショップ（事務局 Facebook より）

## 5. 自身が発表に関わった主な発表

### ① 東彼杵清流会（彼杵川）

『アユが戻った！人と人がつながった！これからも水辺の生物（アユ）に学びながら繋がろう！』

九州川のワークショップでの発表初参加の東彼杵清流会は、アユが戻ってくるまでの取組み、それを取り巻くつながりづくりについて紹介した。発表は東彼杵清流会の池田さんと国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所の河川環境課長（元諫早出張所長）の中島さん、筑波大白川研の坂本の三者で行った。発表は紙芝居風で演出をし、分かりやすく紹介できたように思う。清流会をはじめ、東彼杵町から3団体が発表し、九州の中でも東彼杵町の川の知名度が少しずつ向上している。

### ② 筑波大学白川研究室（109水系）

『全国河川市民団体の報告と九州地方の市民団体の活動量の定量的分析』

自身の発表として全国河川市民団体調査の報告を行った。発表では2012年10月と2013年1月に行った九州の20水系の河川市民団体調査の報告を中心にお話しし、他の地方と比べて独自色の強い部分などについて紹介した(図6)。会場で「ここ2～3年の間に自分の地域の川に坂本が来たという人どれくらいいますか？」と聞いてみたところ、会場の半分近くの方が手をあげてくれた。改めて多くの方にお世話になったことを実感し、発表の中で御礼を申し上げた。

### ③ 古賀河川図書館（全国の川・筑後川）

『河川書の文献について』

古賀河川図書館の古賀邦雄館長による補助発表者を務めた。一問一答方式で坂本から古賀さんへ図書館の概要についての質問、古賀さんから坂本へ図書館を利用した感想についての質問をし、会場に古賀河川図書館のPRを行った。



図8 アピールタイムの様子

## 6. 夜のワークショップ

九州の川のワークショップは昼間の活動発表も重要だが、夜のワークショップ（交流会）も非常に重要な役割を果たしている。特に川内川では活動のキャッチコピーに「夜も楽しい川内川」という格言があるほどなのでなおさらだ。100名以上の参加者が交流会に参加し、円卓を囲み、酒を酌み交わし、各流域間の交流を深めた（大量の焼酎は川内川流域の地元各酒造の協賛、ソフトドリンクは流域に工場のある大手飲料水会社の協賛）。

最後に全員で、九州では中締めとしてよく使われるダム式万歳（ゆっくりと地球をもちあげるような万歳）を行い記念撮影(図7)。

こういう九州間からみんなが集まってきてざっくばらんに語り合う場が定期的にあることが九州の市民の川活動の元気の源なのかもしれない。

## 7. アピールタイム

2日目は朝からアピールタイムがあり、1日目の発表では聞けなかった詳細について担当者を訪ねて、直接聞くことができる(図8)。ここで参加者互いが情報交換を深めることができる。実際に東彼杵清流会の池田さんは「さっき、国交省の人からいいアイデアをもらったから帰ったら早速改良してみよう」など成果があったようだ。私の隣のブースでアピールを行っていた、大淀川の活き活き河童の会の大西さんは墨絵でイラストを書く名人であり、アユもどきや河童などを格言つきで滑稽に描いている。私も



図9 大淀川の大西さんによるイラスト

一枚、私になぞらえて遠賀川の若鮭を描いてくださり、イラストをいただいた(図9)。今回のワークショップの交流が生んだうれしい副産物だ。

## 8. 全体討論会

全体討論会では川内川宣言から8年、頑張ろう川内川をスローガンに頑張ってきた川内川流域の取組が紹介された。その中でも近年は川内川独自の水防災教育のプログラムの開発に川内川河川事務所などが中心になり取り組んでいることが紹介され、今後、九州各地でもこういう防災教育が普及していくことが望ましいという意見が各流域の人からコメントがあった。大水害から8年、激特事業も終了し、ハード面の復興は終わった。それに追従するかたちでソフト面の防災対策も着実に進んでいる。川内川は8年前の水害から学び、水害への備えを着実に進めている。もはや頑張ろう川内川ではなく、頑張った川内川というほうがふさわしいスローガンだろう。



図10 開催地の引き継ぎ

## 9. 表彰

全プログラムが終了し、表彰式。川のワークショップでは各団体が「知恵」「勇気」「希望」「元気」を与えてくれたことに対し全員に表彰状を授与している。私も「九州の川仲間はすごかったで賞」という賞をいただいた。また、思わぬことだった選好投票で、白川研究室の発表が優秀賞(準グランプリ)を頂くこととなった。大変名誉なものとして有難く頂きたい(グランプリは延岡工業高等専門学校)。

## 10. 閉会式・次回開催地決定

閉会式では主催者を代表して川内川流域連携ネットワーク代表の中村周二さんをご挨拶された。川内川水害のボランティアの際に泊めて頂いて以来ずっとお世話になっている。30~40団体の参加を想定していたそうだが、53団体からの発表申込があり、申込数を削るかどうか躊躇したそうだが、せっかく多くの方が来て下さるのだからと全てご招待したそう。運営関係者の懐の深さに感謝したい。

最後に今回開催地の川内川から次回開催地の長崎県の川仲間にWSフラッグの引き継ぎ式が行われた(図10)。次回開催地を代表して、長崎よか川交流会代表の兵働馨さんが挨拶された。長崎もいよいよ2巡目を迎える。今回久々に九州川のワークショップに参加したが、大変有意義な会となった。お世話になった川内川流域連携ネットワークをはじめとする関係各位に感謝申し上げる。

※来年度のワークショップは2015年11月14日(土)~15日(日)に長崎県諫早市の本明川にて開催されます。

### 【筆者について】

坂本 貴啓(さかもと たかあき)

1987年福岡県生まれ。北九州市で育ち、高校生になってから下校途中の遠賀川へ寄り道をするようになり、川に興味を持ち始め、川に青春を捧げる。高校時代にはYNHC(青少年博物学会)、大学時代ではJOC(Joint of College)を設立して川活動に参加する。自称『川系男子』。いつか川系男子や川ガールが流行語になることを夢みている。

筑波大学大学院 システム情報工学研究科 博士後期課程 構造エネルギー工学専攻在学中。白川直樹研究室『川と人』ゼミ所属。研究テーマは『河川市民団体における活動量の定量的分析』と題し、河川市民団体の活動がどの程度河川環境改善の潜在力を持っているかについて研究中。最近のお気に入りには冬の川で泳ぐこと。

## 水辺からのメッセージ No.67

岡村幸二 (JRRN 会員)

### 明神川に沿う社家町： 上賀茂神社から流れる明神川に沿って社前に家を構える



撮影：2014年11月（京都府・京都市北区上賀茂）

#### ◆昔の面影を今もとどめる

錦部家の旧宅は1181年（養和元年）に作庭され、現在の社家の中では最も古い庭ですが、庭内へは明神川の水を取り入れ、“曲水の宴”の小川となり、再び明神川に返されます。社家の町並みは重要伝統的建造物群保存地区に指定されています。

苔むした土塀や門、土塀越しにのぞかせる庭の樹木等は、かけがえのない貴重な歴史的遺産です。みち沿いの明神川は流速も早く手摺があっても不思議ではありません。それがなくて済むのは上賀茂神社の歴史の重みによるのでしょうか。

#### ■ JRRN 会員皆様からの寄稿記事を募集しています！

旅先で見かけた水辺の風景や思い、水辺再生に関わる様々な活動報告、また河川環境再生に役立つ技術等、JRRN 団体・個人会員皆様からの寄稿記事をお待ちしています。(JRRN 事務局)

**遠賀堀川の未来を考える輪い和い話し夢会議 ～第4回「夢の完成！遠賀堀川の理想像」開催報告～**

寄稿者：筑波大学白川（直）研究室（JRRN 団体会員） 遠賀堀川プロジェクトチーム

1. 日程

2014年11月23日（日）に筑波大学の学生6名が福岡県を訪問し、北九州市立大学の学生と一緒に「第4回遠賀堀川の未来を考える輪い和い話し夢会議一夢の完成！～遠賀堀川の理想像～」の運営を行いました。

2. ワークショップ内容

(1) 第4回ワークショップの目標

最終回となる第4回ワークショップでは、第3回ワークショップまでに出た意見を踏まえて「フットパス班」、「駅前・水辺班」の夢をまとめるとともに、それらを参加者全体で共有し、ワークショップとしての理想像を完成させることを目標としました。

(2) プログラム・内容

今回のワークショップの司会は、筑波大学の田中聡大が務めました。ワークショップは主催者である『堀川再生の会・五平太』の中村恭子代表の挨拶から始まり、続いて「第3回のふりかえり」として、筑波大学の学生が前回ワークショップで行った内容及び議論で出た意見についてスライドを用いて発表しました。

次の「堀川再生の会・五平太の活動と夢」では、中村恭子代表が『堀川再生の会・五平太』の今までの活動と子ども達と考えた提案について発表しました（図1）。堀川再生に向けたこれまでの取り組みがわかりやすくまとめられており、また、『堀川再生の会・五平太』の皆様の熱い思いが伝わってくる発表でした。

「水量と流速に関する全体プログラム」では、水量についてはスクリーンに水位を実際より高める加工をした遠賀堀川の写真を複数枚映し出し、それぞれの写真から受ける印象について参加者全員にアンケートを行いました。また、流速については6段階の流速を示し、それぞれがどれくらい理想的か評価してもらいました。

午前中最後のプログラムとなる「班別作業」では、前回に引き続き「フットパス班」と「駅前・水辺班」の2つの班に分かれて作業を行いました（図2）。「フットパス班」では、前回ワークショップで実際に歩きに行ったフットパスコースに加えてさらにもう一つのコースを担当の学生から提案され、2つのコースの名前やポイントを話し合いました。



図1 堀川再生の会・五平太の発表

表1 第4回ワークショッププログラム

1	開会挨拶
2	第3回のふりかえり
3	堀川再生の会・五平太の活動と夢
4	水量と流速に関する全体プログラム
5	班別作業
	昼休み
6	発表
7	全体議論
8	「輪い和い話し夢会議」のまとめ
9	閉会



図2 班別作業



図3 全体議論

「駅前・水辺班」では、前回までに出た意見を共有し、それらをもとに話し合いながら一つの案にまとめていきました。話し合いの過程で、参加者の方より最新の駅前整備計画について情報を提供していただいたので、それに合わせて修正を行いました。

昼休みを挟んだ後、午後のプログラムは両班が夢を発表するところから始まりました。発表の後は「全体議論」です。「全体議論」は、各班の案を参加者全体で共有し、互いの案をより良くするために、相手の班に対して質問したり、意見、感想を述べたりする形式で行いました(図3)。参加者の方々からは、「歩道のない道路は危ないから、人が安心して歩けるように道路整備も同時に行う必要があるのではないか」や、「今回作ったフットパスコースを実際に歩きに行く企画があるならぜひ参加したい」といったような前向きなご意見をたくさんいただきました。

「輪い和い話し夢会議のまとめ」では、筑波大学の学生が第1回から最終回までの全4回の輪い和い話し夢会議の歩みをふりかえりました。

閉会式では、総括として北九州市立大学の内田晃先生と筑波大学の白川直樹先生からコメントをいただきました。そして最後は主催者の中村恭子代表からの挨拶をもって閉会となりました。

### 3. 今後について

今年度中に北九州市長へ今回のワークショップの開催報告・提案式を行います。その際にはご後援いただいた国土交通省九州地方整備局遠賀川河川事務所、福岡県北九州市土整備事務所の方々などにも参加していただく予定です。



図4 遠賀堀川に掲げた黄色いハンカチ



図5 集合写真

《こんなこともしました》

2014年11月10日に亡くなられた国民的映画俳優の高倉健さんをしのんで、高倉さんが主演した映画「幸福の黄色いハンカチ」にちなんで追悼の黄色いハンカチ約80枚を遠賀堀川に横断して掲げました(図4)。そして、ワークショップ閉会後には黄色いハンカチを掲げた遠賀堀川をバックに集合写真を撮りました(図5)。

高倉さんは東筑高校のご出身で、高校時代は遠賀堀川沿いを歩き、登下校をされていたそうです。また、昨年、『堀川再生の会・五平太』が主催した「遠賀堀川の未来を拓くシンポジウム(2013年7月)」や今回のワークショップの際に心温まる祝電を下さるなど、遠賀堀川の活動を応援してくださっていました。

(筑波大学白川(直)研究室 遠賀堀川プロジェクト  
チーム：坂本貴啓, 田中聡大, 鴨志田穂高, 森本健太, 川合君穂, 中前千佳)

## 東彼杵町「水辺からのまちおこし広場」報告

寄稿者：筑波大学白川（直）研究室（JRRN 団体会員） 東彼杵プロジェクトチーム

### 1. 日程

2014年11月23日から25日まで、筑波大学白川（直）研究室東彼杵プロジェクトチーム（以下プロジェクトチーム）の学生4名で長崎県東彼杵町を訪問しました。主な目的は東彼杵町主催で開催された「水辺からのまちおこし広場」にての研究発表でした。また、現地調査、素潜り、魚道設置実験を行い、最終日には町長表敬訪問をしました。

### 2. 「水辺からのまちおこし広場」研究発表

24日18:00から東彼杵町総合会館にて「水辺からのまちおこし広場」の会が開かれました。会の前半は、3つの機関による研究発表が30分ずつ行われました。私達プロジェクトチームは「東彼杵の川を活かしたまちづくりについての提案」と題して、夏に実施した調査を基に考えたまちづくり案を発表しました。その概要としては、町の人々が普段気付かないような外部の視点から見た東彼杵町や川の魅力を活かしたまちづくりを行うというものでした。

提案のコンセプトとして「わくわくする町」をテーマに挙げました。なぜなら「わくわくする町」にすることで、住民も地元の魅力を感じ愛着を持ち、人々の定着を促進するのではないかと考えたからです。このコンセプトを基にウォーキングルートの設置や川と関係したまちづくりを考え、各案の説明を行いました(図1)。

長崎県環境研究センターの粕谷さんからは、大村湾における二枚貝（アサリ）生息場造成の可能性についての研究発表がなされました。JRRNの和田さんからは、日本と世界の水辺再生についての事例の紹介がなされました。

会の後半は、東彼杵町内の河川関係の8団体が5分程度の活動発表を行いました。古賀河川図書館館長の古賀さんからは、雑誌「水の文化誌」に掲載された東彼杵町の川にかんする記事について紹介され、東彼杵町の魅力を語られました。東彼杵清流会の池田さん（共同発表者：国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所河川環境課長 中島さん、プロジェクトチーム 坂本）からは、紙芝居を用いて、彼杵川にアユを魅らせる活動、また筑波大学が東彼杵町に関わるようになったこれまでの経緯等について発表されました。県北グリーンクラブの宮川さんからは、森林保全を通じて、山、川、海の健全な水循環の重要性について発表されました。八反田蛍まつりの会の林さんからは、今年度の千綿川での活動（蛍まつり開催、プロジェクトチーム合宿サポート）について発表されました。川まつり実行委員会代表の三根さんからは、昨年からはまった新たな取り組み、彼杵川川まつりについて発表されました。



図1 プロジェクトチームの発表の様子



図2 東彼杵町長からの感謝状

彼杵小学校教諭の堀さんからは、彼杵小学校の彼杵川を活かした総合的な学習の取り組みについて発表されました。東彼杵にジャズフェスを立ち上げる会の藤澤さん（共同発表・朗読 プロジェクトチーム 中前）からは、未作曲の「東彼杵ラブソディー」の詩の発表、朗読がなされました。

会の最後には長崎県北振興局の壇河川課長と白川による総評、そして町から本プロジェクトチームを含む町外3団体の感謝状の贈呈式が行われ、授与していただきました(図2)。

「水辺からのまちおこし広場」の終了後は、町長をはじめお世話になっている方々との交流会がありその日を終えました。



図3 現地調査中のプロジェクトチーム



図5 高台からの風景



図4 江の串川やすらぎの里河川公園



図6 彼杵川河川公園での素潜り

プロジェクトチームの提案を褒めて下さったり、採用して実現に向け検討していきたいと言って下さったりと東彼杵町の方々の反応を見て嬉しく思いました。より良い東彼杵町の実現に向け一歩近づけたと思います。

### 3. 現地調査, 実証実験, 素潜り, 町長表敬訪問

24日の午前中は調査を行い、現地の視察を行いました(図3)。まずは9:00に千綿川の上流の方へ行き紅葉を見た後、そこから9:30には串川へ、続いて10:00頃には江の串川へと移動しました。

江の串川では最初に大村湾を展望できる高台に行きました。大村湾, JR大村線, 長崎自動車道を一望できる非常に気持ちの良い所でした。次に江の串川の下流部へと下りました。10:30に江の串川河口の里郷の港へ行き、その後江の串川やすらぎの里河川公園(図4)を訪れました。やすらぎの里は河岸がコンクリートで固められた人工的な川となっていました。園内の花々や大樽の滝, さらにゲートボールをしている人々が見られ, のどかな雰囲気を感じました。11:00頃には川から少し離れ, 里郷の高台(図5)へ行きました。そこからは大村湾, 江の串川, 周辺の山々, そして町を見下ろすことができ, 東彼杵町で最も眺めの良い所の1つだと思いました。



図7 装置設置実証実験

昼からは彼杵川河川公園へ移り, そこで素潜りとカヌー, そして魚類遡上円滑化装置の設置実験とその改善検討を行いました(図6, 図7)。一時期姿を消していたアユが近年彼杵川に戻ってきたのにも関わらず, 堰で水を止めている際に魚道をアユが登りきることができないという問題が浮上したため, 新しく装置を考案しその試作品を設置しました。今後新たな装置の実用



図 8 彼杵川下流



図 10 海軍用水跡



図 9 中池



図 11 川内郷

化へ向け、そこで改善点等を検討しました。

25日の朝は町長表敬訪問をしました。「水辺からのまちおこし広場」で発表した提案や東彼杵町について語りました。10:30頃からは前日に回ることでできなかった彼杵川下流(図8)と彼杵川を横断している長崎自動車道の高架下を見に行き、12:30頃からは三井木場池、鹿の丸池、中池(図9)、蕪池を回りました。蕪池で昼食をとった後、14:00に大村湾沿いにある海軍用水跡(図10)に立ち寄りしました。この海軍用水は、旧佐世保海軍の軍艦の飲用水の重要な補給場所であり、千綿川(聖流庵付近の堰)から水を引いていました。そこから川内郷(図11)、そして彼杵川を上流へと上っていき二ノ瀬、三ノ瀬、坂本郷を視察し、今回の東彼杵町の訪問全日程を終えました。

#### 4. 今後に向けて

東彼杵町での発表会を通して、町長や町の方々が積極的な反応を示して下さったり、お誉めの言葉をかけていただいたりして、手応えを感じることができました。また、町の方々が好印象を受けた案やその理由など、東彼杵の方々の生の声を聞くことができました。

さらに、今回再び現地視察を行えたことで川を活かしたまちづくり案をより具体的に描くことができ、また新たな発見もありました。来年も東彼杵町の川づくり、まちづくりへ関わらせていただき、理想の町にさらに近づけるように取り組んでいきたいと思えます。

今回の訪問にあたり、東彼杵町の渡邊悟町長、東彼杵町まちづくり課の皆様、東彼杵清流会の池田健一さん、県北グリーンクラブの宮川弘さん、聖流庵の永富由美子さん、その他たくさんの地元の方々にご案内とご尽力をいただきました。ここに記して感謝を申し上げます。

(筑波大学白川(直)研究室 東彼杵プロジェクトチーム：中前千佳、川畑遼介、坂本貴啓、渥美元貴、鴨志田穂高、森本健太、井坂七星、白川直樹)

※今回の訪問者：中前、川畑、坂本、井坂、白川

**(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)**

■雨といきもの展 in 国営備北丘陵公園  
 ○日時：2014年11月29日(土)～12月24日(水)  
 ○主催：国交省中国地方整備局三次河川国道事務所  
 ○場所：国営備北丘陵公園(広島県庄原市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2063.html>

■基礎水理シンポジウム2014  
 ○日時：2014年12月1日(月) 9:30～16:30  
 ○主催：土木学会  
 ○場所：土木学会講堂(東京都新宿区)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2039.html>

■第184回 河川文化を語る会『1尾の魚から始まった生物観察会』  
 ○日時：2014年12月13日(土) 14:00～16:00  
 ○主催：公益社団法人日本河川協会  
 ○場所：山口市菜香亭 2F 会議室(山口県山口市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2041.html>

■森里海シンポジウム  
 ○日時：2014年12月14日(日) 13:00～17:00  
 ○主催：京都大学 他  
 ○場所：キャンパスプラザ京都 5階(JR京都駅前)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2049.html>

■第5回 琵琶湖地域の水田生物研究会  
 ○日時：2014年12月21日(日) 10:30～17:00  
 ○主催：滋賀県立琵琶湖博物館  
 ○場所：琵琶湖博物館 ホール(滋賀県草津市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2059.html>

■第8回 生物多様性協働フォーラム  
 ○日時：2014年12月23日(火) 11:00～17:00  
 ○主催：生物多様性協働フォーラム事務局  
 ○場所：グランフロント大阪(大阪市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2061.html>

■第十回「外来魚情報交換会」  
 ○日時：2015年1月24日(土)～25日(日)  
 ○主催：琵琶湖を戻す会  
 ○場所：草津市市民交流プラザ(滋賀県草津市)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/2055.html>

■平成26年度「河川教育研究交流会」  
 ○日時：2015年1月31日(土) 10:00-17:10  
 ○主催：公益財団法人 河川財団  
 ○場所：東京海洋大学品川キャンパス(東京都港区)  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/1999.html>

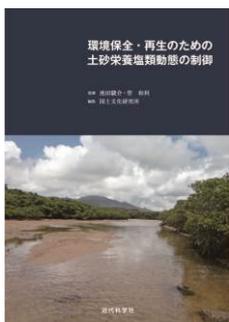
**(海外の河川・流域再生に関する主なイベント)**

- 2015.3.6-8(ダッカ/バングラ) 5th Int. Conf. on Water and Flood Management
- 2015.4.12-17(Daegu/韓国) 7th World Water Forum
- 2015.6.28-7.3(ハーグ/オランダ) 36th IAHR World Congress
- 2015.6.30-7.2(Wageningen/オランダ) Int. Conf. on River and Stream Restoration
- 2016.7.27-29(リエージュ/ベルギー) 4th IAHR Europe Congress
- 2016.9.19-22(Stuttgart/ドイツ) 13th Int. Sympo. on River Sedimentation

書籍等の紹介 Publications

■ 環境保全・再生のための土砂栄養塩類動態の制御 (2014.10 発刊)

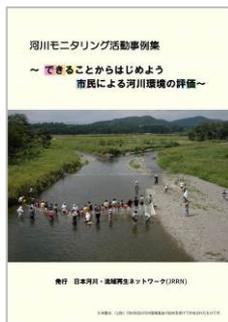
- ・監修：池田駿介・菅 和利
- ・編集：国土文化研究所
- ・出版社：株式会社近代科学社
- ・価格：4,000円+税
- ・出版年月：2014年10月



JRRN 事務局を共同運営する(株)建設技術研究所国土文化研究所より2014年10月に発刊されました。本書は、陸・川・海における水・土砂栄養塩類の移動・制御、およびそれらが生物・生態系に及ぼす影響を野外や実験室において行った研究の成果など、自然環境再生に向けた新たな視座が紹介されています。

■ 河川モニタリング活動事例集～できることから始めよう 市民による河川環境の評価～(2014.3 発刊)

- ・執筆協力：河川再生に携わる市民団体や行政機関
- ・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)
- ・出版年月：2014年3月



市民が主体的に取り組む河川環境のモニタリング活動の実態を調べ、各地のモニタリング活動事例や市民による河川モニタリング活動の更なる活性化に向けたヒントを紹介しています。

※本冊子の入手方法

JRRN 事務局までご連絡ください。送料のみご負担頂いた上で、無料で提供致します。(JRRN 会員限定)  
[info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net) / 電話：03-6228-3862

■ JRRN の登録資格（団体・個人）

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。  
市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

会員登録をされた方々へ、様々な「会員の特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2014年12月1日時点の個人会員構成  
(個人会員数：677名、団体会員数：54団体)

JRRN 会員特典一覧表(団体会員・個人会員)

提供サービス	JRRN 個人会員	JRRN 団体会員	非会員 (一般)
1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1	◎	◎	◎
2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2	◎	◎	◎
3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3	◎	◎	×
4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3	◎	◎	×
5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4	◎	◎	×
6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5	◎	◎	×
7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6	△※7	◎	×
8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載	×	◎	×
9 ARRN活動に関連する英語ニュースレター(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8	×	◎	×
10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9	×	◎	×

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 新川中央ビル7階

公益財団法人リバーフロント研究所 内

Tel:03-6228-3862 Fax:03-3523-0640 E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)

URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>

JRRN 事務局は、「アジアにおける河川再生のためのネットワーク構築と活用に関する研究」の一環として、公益財団法人リバーフロント研究所と株式会社建設技術研究所国土文化研究所が公益を目的に運営を担っています。

